

22号 熱田高同窓会報

発行
愛知県立熱田高等学校
同窓会事務局
TEL(052)-652-5858

同窓会ホームページ
URL:<http://www.atsuta.gr.jp/>

熱田高校ホームページ
URL:<http://www.atsuta-h.aichi-c.ed.jp/>

目次

巻頭文 ----- 1
 コロナウィルス禍に向き合う
 同窓会書記 伊藤武博 16 回生

コロナ禍の改修工事 ----- 2
 18 代校長 三好博輝 24 回生
 新しい生活様式の中の熱定の今
 教頭 渡辺喜長 (定時制)

熱田高校の今 ----- 3
 コロナ禍半年の活動
 教務主任 辻村 博 先生
 生徒の声 ----- 4
 受験生にとってのコロナ禍
 3 年 (66 回生) 山田千乃
 コロナショックで
 見みえないものが見えてきた
 2 年 (67 回生) 結野加脩
 コロナ禍でふと思ったこと
 1 年 (68 回生) 久米千尋

がんばれ熱校生 ----- 5
 黄金の日々
 23 回生 川邊 浩先生
 栄光の架橋
 23 回生 青木宏憲先生
 地元民の利点
 神谷 久先生
 熱男と温男
 25 回生 奥田隆庸

創立 70 周年にむけて ----- 8
 ふるさと納税に関して
 25 回生 早川徳一 (税理士)
 挿し絵 11 回生 田中和枝(竹内)

事務局だより ----- 8
 役員一覧 あとがき

確定申告書案内 ----- 9



同窓会のQR



正門から見た改修工事中の 1 棟 (令和 2 年 11 月 5 日撮影)

今年に入学期後に突然の学校閉鎖に始まり数々の行事・クラブ活動の中止などコロナに翻弄された 1 年です。生徒の皆さんも先生方も体験したことのない事に戸惑い学校生活や家庭ではずいぶんとメンタル・体力面でも苦労したことでしょう。特に 3 年生はこれから控える受験においても心配の種は尽きないでしょうが、熱高生としての明るさと団結力でこの 1 年の経験を将来の力



コロナウィルス禍に向き合う
同窓会書記 伊藤武博

夏も過ぎ落ち着いてきたと思われたウィルスが、冬の寒さと共にぶり返して、第 3 波がやってきたようです。経済活動とウィルスの共存が課題となってきます。

70 周年募金報告 10 月末現在
 特定寄附金 171 件 6, 148, 000 円
 一般寄附金 175 件 2, 120, 000 円



完成予想の緑一色の運動場

に変わって乗り越えてください。さて、同窓会の皆様におかれましては、創立 70 周年記念事業の一環としての『運動場の人工芝化実現』の寄附のお願いが届いていることと思えます。「ふるさと納税制度」が利用できますから、母校の発展のためにぜひともご協力をお願いします。私は、熱田と言えばサッカーというイメージが強く人工芝化により強いサッカー部が復活することを願っています。

コロナ禍の改修工事

18代校長 三好 博輝



同窓会の皆様方には日頃からのご支援に心から感謝申し上げます。とりわけ、

グラウンドの人工芝化に向けてご尽力いただいておりますことに重ねて御礼申し上げます。

新型コロナウイルスの影響で、球技大会や文化鑑賞会、文化祭等の行事が次々と中止になりました。しかし、感染防止対策を徹底し、9月30日から2泊3日で広島への修学旅行を実施することができ、少しほっとしているところですが、この先冬に向かって、コロナとインフルエンザに気を使いながらの毎日が続きそうですが、生徒たちには、明るく元気に学校生活を送ってほしいと思います。

そんなコロナ禍にもかかわらず熱田高校は、改修工事のために、さらなる窮屈な生活を強いられることになりました。

本年度、かねてから計画のあった愛知県の長寿命化工事の対象となり1棟の改修工事を実施することになりました。各部屋の床や天井の張替え、照明器具のLEDへの交換・トイレの改修・外壁の全面塗装等です。

校舎の老朽化については苦慮してまいりましたので、熱田高校にとってはありがたい工事ではありますが、現場の教職員や生徒にとっては、不慣れた生活を余儀なくされています。7月下旬多くの生徒の手を借りて、2階東側にある職員室の机やロッカーを1階西側の会議室へ運ぶ大移動を

しました。移動先には水道は無くトイレも使用できないため、2棟北の手洗い場を使用し、3棟1階を臨時の職員トイレにしました。しかし、コロナで衛生管理が求められているにもかかわらず、不衛生な生活を強いられている現状です。今これを書いている最中も、壁の向こうからは、ドリルの音が鳴り響いています。

現在は職員室の工事が完了し、校長室と事務室の工事が間もなく終了する予定です。「白亜の校舎」という表現が校誌「熱田」に出てきます。来年の3月には、正門をくぐった同窓生の目の前に再び「白亜の校舎」がそびえ立つこととなります。

最後になりましたが、佐々木元彦会長をはじめ同窓会の皆様には、日頃から本校の教育活動に關しまして格別なるご支援をいただいていることに心から感謝申し上げます。引き続きこれまで同様の支援を賜りますようお願い申し上げます。

新しい生活様式の中の熱定の今

教頭 渡辺喜長



同窓会の皆様には、いつも温かい目で定時制を応援してくださいありがとうございます。とうございます。

令和2年2月から始まったコロナ禍で、本校定時制からコロナウイルス感染者が出ないかと心配をするドキドキの毎日を過ごしております。定時制の生徒たちに対して、どこまでの消毒をして、どこまで対策をすれば大丈夫なのか、いまだに試行錯誤の毎日です。今のところ、ひとりも感染者を出すことなく、先生方・生徒諸君の努力に感謝しています。

この半年で変わったことがたくさんあります。

一番大きく変わったものは給食です。和気あいあい笑い声が響いた食堂が今では、皆が同じ向きに座り、食事中は基本的におしゃべりをしていない。今まで見たことのない光景です。生徒たちの楽しみを奪っているように胸が痛みます。逆に良かったことは、食事をする前に手洗いを、食後は自分の席の消毒をするようになり、見ていて成長を感じます。

そして、給食室前に同窓会副会長の柿崎賢一氏(全日制17回生)の寄

贈でサーモグラフィーが設置されました。自動で検温が出来るので、面倒も無く安心して食事の環境を提供出来るようになりました。



サーモグラフィー (給食室に設置)

授業もそうです。今までは、先生の声が届きやすいように教室の真ん中に座席を作っていました。しかし、ソーシャルディスタンスをとるために、教室全体に広がるように座席を変えました。先生からの距離が遠く授業の一体感が欠けますが、私語が格段に減りました。正直、授業はしやすいと言えます。

行事計画もかなり変更しました。一番大きなものは、修学旅行です。中止も検討しましたが、入学時から楽しみにしていた生徒たちも多く、実施するために、沖縄方面から京都・大阪方面に変更しました。また、1学期に行っていた球技大会は2学期に移し、減日しました。映画

鑑賞会は中止。将来の参考になる進路講話も中止になり非常に残念です。変わらないものもあります。ひだまりファームです。生徒たちが水やりなどよく面倒を見てくれます。東門の辺りに小さな花壇も出来ました。道路からも鑑賞できるので機会があればぜひご覧ください。

生活様式は大きく変わりましたが、生徒たちも先生方もみんな頑張っていますので、今後とも、同窓会のご支援ご協力よろしくお願い致します。

熱田高校の今

コロナ禍半年の活動

教務主任 辻村 博



本年度は昨年末からの休校措置から5月末まで続き、予定されていた行事もほとんど中止となつてしまいました。また、新入生は入学式を簡素化して実施したものの、すぐに休校となり、クラスメイトの顔もわからないまま時が過ぎていきました。休校中は、学習機会を保障するた

め、「ロイロノート・スクール」というアプリケーションを導入して、課題の指示や提出、さらには学習を支援するための動画やスライドを先生方が作成し配布しました。

6月から授業を再開しましたが、蒸し暑い中でのマスク着用の授業で先生方も生徒も日々体力を消耗していました。学習に関しては、休校中の適切な課題指示のため、夏休みまでには例年通りまで進めることができました。先生方には大変ご苦労をおかけしましたし、生徒も皆一生懸命に取り組んでくれました。感謝しています。

夏休みも短縮し、授業を行いました。そのたの文化祭の準備ができなくなり、やむなく中止にしました。体育祭は10月末に実施する予定です。2年生の大きな行事である修学旅行もコロナの第2波により心配されましたが、先生方の尽力により無事実施でき、良い思い出づくりができたことでしょう。

2学期以降はほぼ予定通りに学校生活を過ごすことができています。部活動も夏以降段階的に再開されています。今後は特段大きな変化がなければこのまま学校生活を過ごすことができるでしょう。

さて、このコロナ禍で、学校の時代遅れが露呈しました。それはICT

の導入の遅れです。本校の先生方は他校に比べればICTに対して積極的に授業でもよく活用されています。しかし県のハード整備は遅れており、このコロナ禍により動くはじめた状況です。今、教育の現場に最も必要なものは、生徒も教員も安心して利用できる高速ネットワーク環境と、家庭でも学校でもどこでも学べるタブレットなどのICTの整備です。本校の先生方のアイデアに環境が追いついていないこの現状を今後少しずつ前進させていけるように、関係各所に働きかけていきたいと考えます。

受験生にとってのコロナ禍

3年生 山田千乃



熱田高校では1学期は、臨時休校が続く、中間考査もなく、分散登校がありました。2カ月間という短い1学期が終了しましたが、その分大幅に短縮された夏休みを迎えました。私たち高校3年生にとって、受験の天王山とも言われる夏休みが短くなってしまったことは、危機感や焦りを感じました。友達と会うことが難しく、切磋琢磨することができ

なかったため、計画的に勉強する必要がありました。

夏休みが終わり、無事に2学期が始まりましたが、高校生活のメインイベントの一つである文化祭は中止になってしまいました。文化部の人にとっては、学校で一番輝ける機会を失いました。また、体育祭も規模を縮小しての開催となり、盛大に盛り上がる応援団によるパフォーマンスも無くなってしまいました。友達とより絆が深まる大切な場所がどんどん失われていき、悲しくなりました。学校行事がなくなったことで勉強のモチベーションが下がったり、息抜きができなかったりする人も多々います。

そして、新型コロナウイルス感染症の影響は外にもあります。受験生のオープンキャンパスへの参加が難しくなっており、志望校選びに頭を悩まされます。模試の会場での受験もなくなくなってしまったため、高校での受験になり、さらに不安が襲いました。

今、世界では新型コロナウイルスの影響により、新しい生活様式が定着しつつあります。日本ではG・O・T・Oキャンペーンも始まり



色々なイベントも開始されています。また、オンラインでの授業を実施している大学も多くありますが、早く新型コロナウイルス感染症が収束して以前の学校生活に戻ることを願っています。

コロナショックで

見えないものが見えてきた

2 年生 結野加脩



今ある日常が、突然変わったら。漫画やドラマなどではよくある展開だ。それが「ふと」現実になると、僕は

目まぐるしく動く社会情勢に流される事しか出来ませんでした。突然の休校、まるでゾンビでも現れたかのように、人々の外出は制限されました。しかし、長い休校期間は終りを迎え、慎重に学校生活が再開されました。

久しぶりに友達に会う事ができ嬉しく思いましたが、コロナ感染者数はまだまだ収束の気配をみせず、まだまだ油断できない状況です。完全に学校生活を送るために、様々な工夫が施され実践しています。全員がマスクをし、アルコール消毒、手洗い・うがい、また、なるべく向か

い合うことを避けています。当たり前の事かもしれないませんが、全ての人が行っていた事に、僕は感動しました。この感動は、今の状況下でしか得られないものだと思います。さて、僕を含めた 2 年生は、9 月 30 日から 10 月 2 日までの間広島方面へ修学旅行に行きました。文化祭が中止になり、修学旅行も直前まで行けるのか分からない状況だったので無事に行けた事に安堵しています。先生方が、色々な工夫をしてくださったおかげでとても楽しい修学旅行となりました。



今、世界を取り巻く状況は、簡単

には元に戻らないと思います。コロナウイルス感染症が収束したとしても、今までと違った常識や日常生活が待っていると思います。例えばインターネット上での教育のシステムがそれに当たると思います。熱田高校でも、スマートフォンを使って課題の提出をしたり、先生と生徒で連

絡を取り合ったりしています。このシステムはとても便利なので、これからは残していった方がいいです。コロナ下で学んだことは、その場で適切な行動をとる事が大切だと言うことです。僕達高校生は自分出来る事を見極め、行動に移す事でコロナウイルス感染症の被害を抑え、また高校生として一段階成長できると思います。

コロナ禍でふと思ったこと

1 年生 久米千尋



『こんなになるとは思っていなかった。』あの時私達は口を揃えてこう言いました。たかが、ウイルス。所詮外国の問題。そういった気持ちや行動によって今回の問題は世界中に瞬く間に広がったと思います。

いじめのとき加害者や傍観者は同じようなことを言うのではないのでしょうか。たかが、無視しただけ。所詮他人の問題。私はこのような言い方を耳にしたことがあります。今、日本では 61 万件のいじめが認知されています。この件数を見て本当に他人の問題と言うことができる

のでしようか。いじめも今回の問題も軽視すれば、いずれ問題は大きくなり、被害も大きくなります。

私達にウイルスの拡大を防ぐことは難しいかもしれませんが、いじめの防止や拡大を防ぐことはできるのではないかと思います。

私はいじめの加害者や被害者を、実際に目にしたことがありませんが、目にした時は、注意をする人、相談をしてもらえ人になりたいです。

改めて、今いじめが身の周りです。改め、友達と一緒に過ごしている学校生活に幸せを感じます。

臨時休校が始まり不安な日々を過ごしましたが、学校が始まると新しい友達ができ、今はとても楽しい学校生活を送ることができています。また、すぐそこに球技大会が迫ってきています。生徒会長として数少ない行事ですが、今年行事の質を高めるチャンスだと思い、楽しい行事作りに力を注ぎたいです。

コロナウイルスによって、この楽しい日々は普通ではないことを知りました。今送ることができている学校生活がいつまで続くかわかりません。身の回りの人に感謝をし、毎日を大切に送り、友達と楽しい思い出を作りたいです。

(後期生徒会長)

がんばれ熱高生

今回は令和2年3月に退職された教職員3名（うち本校卒業生2名）とOB1名に原稿を依頼しました。

川邊浩先生（23回生）は、実習職員として昭和54年から実に40年間以上にわたって本校の教育を推進されました。青木宏憲先生（23回生）は、平成24年から8年間努められ、同窓会学校幹事として学校と同窓会の橋渡しをして下さいました。

神谷久先生は平成26年から7年間お世話になりました。

OBの奥田隆庸氏（25回生）は、中部パークシステム代表取締役をしてみえます。

黄金の日々

23回生 川邊 浩

私の独身時代は、黄金の日々であった。お金はないが、有り余る体力と自分のためだけに使うことができ、時間がたっぷりあったから。若さには不思議な求心力があるのだろう。若いというだけで生徒は興味を持って接してくれた。私もこの仕事に就いたばかりの頃は生徒と関わることに楽しかった。実習教員という仕事は、大まかにいうと実験の準備をしたり、実験・実習の補佐をすることである。実験・実習が滞りなく実行

できるための言わば裏方である。そんな私が、深く関わる生徒とさえば化学部員たちであった。その関わり方は、実験を指導するというよりも、むしろ、どちらかいうと一緒になって実験を楽しんで行こうという立ち位置であった。熱高祭に向けて市販のラムネに負けない味を作ろうと頑張ったり、正八面体の結晶を作ろうと毎日、繰り返し試薬を調整したりした。何とか、目的の結晶を作り上げたときは、確かな達成感を得たことを今でも覚えている。

化学部の連中と楽しい日々を送りながら、私はこの生徒たちの活動

を楽しみだけでなく、もう一段上の学術的な価値のある活動にはできないものかと考えるようになった。何か化学部の活動の芯になるようなものはないだろうかと求めていたとき、昔の『校誌熱田』を見てみると「堀川の水質調査」という昔の化学部のレポートを見つけ、「これだ。」と思いましたね。現在の堀川の水質を調査して昔のデータと比較するだけでも意義がある。調査の方法を学ぶだ



化学室での実験 右端筆者 川邊浩氏

けでも酸化還元滴定という学習にもつながると考えた。

牛乳ビンにビニール紐をくくり

付け、堀川に「ドボン」と投げ込み、堀川の水を回収しては実験室で分析することになったのである。堀川の

臭い水と長年お付き合いすることになったのである。その結果、校誌熱田で賞を取り、化学部の活動がTV・新聞で取り上げてくれたので、化学部員は有頂天になって、水質調査に飽き足らず、堀川の底に堆積しているヘドロまで、調べるようになった。主に大瀬子橋から白鳥橋までのヘドロである。今現在、名古屋市は堀川・中川運河を観光資源として浄化する方法を模索しているらしい。堀川の表層の水は、それ程汚くはないのだが、ひとたび、大雨・強風が吹くと川底のヘドロが舞い上がり、河川中の溶存酸素がヘドロに喰われて、酸欠になり、ボラやコノシロ等の魚が死んでしまうことが、今でも起きる。堀川からヘドロを取り除くことは、現実的には困難なため、アサリとか、葦等、生物の力をもって浄化できないものかと、つい妄想してしまう。将来、綺麗になった堀川の七里の渡しで、立派に大人になった化学部員たちと再会できる日を楽しみに、もう少し頑張りたいと思います。

熱田高校で出会った人々や桜等の木々・生き物、校舎等あらゆるものに感謝しております。

（実習教員）

（令和2年3月ご退職）

栄光の架橋

23 回生 青木宏憲



小学校 4 年から始めたサッカー。中学時代に 2 つのきっかけがあり、高校でもサッカーの強豪校へ。さら

に高いレベルへチャレンジするため関東の大学へ。そして社会人（教師）となってもプレーヤーを続けた。いつかは選手を引退（実際は 34 歳で現役を引退）して、その後は指導者（実際は教師なってからは、指導者と選手を両立）となり、自分の目指した道を歩き始めることになった。幸いだったのが全ての歴任教でサッカー部があり顧問になれたこと。最初は弱小チームで県大会出場を目標に若さ溢れる指導で生徒達を圧倒した。毎日いろいろな戦いがあった。部活指導以上に生徒指導にも追われる毎日であった。何とか初任教で県大会出場をはたし、次の赴任校ですらにステップアップ。あと 1 勝でインターハイ出場までこぎつけた。（この時の相手が熱田高校で、勝った方が全国総体に出場するといった試合で、結果は 0 対 1 惜敗。結局全国大会出場はできなかった。）3 つ目の着任校では、元々の強豪校でありとに

かく朝から晩まで、生徒共にサッカーに没頭した。選手権でパロマ瑞穂まではいったが、準決勝で敗退。次の赴任校では県大会常連にまではなつたが、結局はそこまで。そして母校へ。

着任したその年に、最初のチャンスが訪れた。しかし岡崎城西の前に屈して、準決勝で敗退して 3 位で終了。その 3 年後、県総体決勝リーグ。初戦東海学園に勝利して、全国が少し見え始めたところで 2 連敗をして第 4 位で終了。令和元年いよいよ指導者として最後の選手権、20 年前とは勢力図もかなり変わり、新興勢力がかなり増えた。私学に 4 ～ 5 回は勝たなければ頂点は取れない時代になった。1・2 回戦順当に勝ち進み、ここから先は私学が待ち受ける。ここ 2 年僅差で負けてきた名経大高蔵に念願の勝利で波に乗った。次の名古屋高校戦にも PK 戦で勝利しパロマ瑞穂へと駒を進めた。準決勝の相手は 7 年前と同じ岡崎城西。何とか接戦に持ち込めば勝機はある。3 年生を中心とした粘り強い守備で、1 失点で前半を終了。想定内だ。後半 20 分から攻撃にスイッチを入れる。相手押し込み何度かあったチャンスを決めきれず、そのまま試合終了。全国大会出場を果たすことはできなかったが、指導者として最後まで

やりきることができた。いろいろなことを教えていただいた先生方、どんな場面でも力を出し切ってくれた生徒たち、すべての人に感謝したい。栄光の架橋にはなれなかったが、いま振り返るとこんな教員人生だったと思う。



愛知県サッカー協会技術委員長も務める青木宏憲監督。

誰にも見せない涙があった人知れず流した涙があった決して平らな道ではなかったけれど確かに歩んできた道だあの時想い描いた夢の途中に今も何度も何度もあきらめかけた夢の途中いくつもの日々を越えて辿り着いた今があるだからもう迷わずに進めばいい栄光の架橋へと悔しくて眠れなかった夜があった

恐くて震えていた夜があったもう駄目だと全てが嫌になって逃げ出そうとした時も

思い出せばこうしてたくさんの支えの中で歩いてきた悲しみや苦しみの先にそれぞれの光があるさあ行こう振り返らず走り出せばいい希望に満ちた空へ

（ゆず「栄光の架橋」より）
（令和 2 年 3 月ご退職）

地元民の利点

神谷 久 先生



教員生活は熱田区民として送ってきました。定年を、在住する熱田区の高校で迎えられたことは、最高の幸せでありました。「近い！」は就職以来今までありませんでした。これは何事にも代えがたい有り難いことです。コロナで外出自粛の昨今では、本当に有り難いことです。

熱田高校での 6 年間は、3 年・2 年・3 年・進路主任 2 回・3 年担任という、かなり変則的？なものでした。多くの生徒の「卒業」に関わる事が出来たのは貴重な経験で、大

きな財産にすることが出来たと思えます。

私生活では、南区や港区などに、足を踏み入れる機会は多くはなかったのですが、本校に赴任して以来、毎日のように店舗に通っています。平日に地元で買い物が出る時間に地元にいることのできる生活に感謝しています。K 自転車店で「本校の教員である」と明かしたとき、大奥様が卒業生と申され、当時の話や教員などの話になり本校の伝統の一端を味わうこともありました。

定年で、「本校を去るにあたり」と書きたかったのですが、再任用制度のおかげをもちまして本年度も本校勤務を維持することになりました。

大学時代の友人が青木宏憲先生の同級生だったことも一つの縁であり、今しばらく本校に貢献を続けることができればと思う今日この頃です。そもそも、バスケットボール部顧問としての礎を私に教えて頂いた方は熱田の卒業生です。今は私立高校で勤務されておりませんが、本校前校長はその学校に赴任されました。

また前校長の熱田での同級生が、私の大学の先輩だという縁もありました。世の狭さ？というか縁？を地元で味わえるのは、やっぱり地元民であることによる利点なのでしょう。

(令和 2 年 3 月ご退職)

熱男と温男

25 回生 奥田 隆庸



卒業して 40 年が過ぎ高校を見渡してみると、変わらない校舎と取り巻く樹木が茂るグラウンド。唯一体育館は新築され場所が変わっていた。ホッとした気持ちと変化のない風景に複雑な気持ちが交錯する。鉄筋コンクリートの建物の耐久性は 50 年以上と言われているが、耐震補強で延命しているようだ。私立の高校と施設整備の差を感じる。他の県立高校も同様に、これが普通だと思えば良い。だが、これで良いのか？変わらないことができるのか？卒業生として後世に何が湧いてくるのは私だけであろうか。

当時学校群制度になり 5 年目を迎え、地元白鳥小・宮中から多くの同級生が、地元熱田高校を含む学校群を選択。近所の先輩方も OB が多く、ひとつ年上の部活の先輩に憧れ受験した。入部したバスケット部は、サッカー部のように全国大会を目指す強豪チームではなく県大会出場が目標でした。ちなみに 2 歳上の兄も卒業生です。ともあれ、入学した動

機は人それぞれかと思えます。入学してからの私は、熱田温泉と椰揄される校風の中、体育祭や合唱祭、受験間近の文化祭や部活に専念していた、所謂温男だったと記憶している。その結果、ほとんどの仲間には、大学浪人を経験した世代ではなかったでしょうか？あつと言う間も 3 年間でしたが、当時は無心に何事も全力で取り組んでいた。元気なあまり暴走したことも、今となれば良い思い出ばかりです。

卒業してわかったことですが、熱高イズムとは、熱田の杜のもと四季のまつり事を大切に、自由で闊達な思春期を謳歌し、そして新たに伝統



バスケットボールの仲間達と

を刻もうとする地元愛に満ちた仲間が集りではなかったでしょうか。昭和のオイルショック、平成のリーマンショックと時代の変化を経験した。そして令和のコロナショックと大きな荒波に飲み込まれそうな今、復興のシンボルとしても再スタートした熱田高校を見てみたい。

創立 70 周年記念事業の一環として、愛知県立高校初のグラウンドの人工芝化や、人材育成基金を通して現役学生の国際交流及び部活動をサポートする。これを契機に熱田高校に入学したいと思う学生の動機づけとなることを祈念している。還暦を前にまますパワーアップした卒業生の熱男仲間とともに実現に向け一丁目一番地と位置づけ取り組んでまいります。

卒業生の先輩方はもとより後輩諸君も応援よろしく願います。最後に私事ですが今環境整備の一環として公園や学校のインフラ整備を主に、最近ではレゴランドやラグーナテンボスなどレジャー施設の整備も手掛けています。微力ながら 70 周年に向けお力になれたらと思います。

(中部パークシステム㈱)

代表取締役

創立70周年に向けて

ふるさと納税に関して

25 回生 早川徳一



『思いと伝統』を形にしませんか？母校に県内初の公立高校人工芝を寄附しましょう。しかも話題の

「ふるさと納税」を使うこともできます。そのことについて簡単に説明します。

手続きは確定申告で行います。例えば給与所得の方は、確定申告書A様式所定の箇所に源泉徴収票の収入額・所得額・所得控除額・源泉徴収額を記載します。

そして、二表⑯寄附金控除に「熱田高校創立70周年記念事業及び所在地」と特定寄附金額を、住民税に關する事項の寄附金税額控除(特例控除対象)に特定寄附金額を記載します。

続いて一表の⑯寄附金控除額に特定寄附金額と所得金額の40%のいずれか少ない方の金額から2千円を控除した後の金額を記載します。

最後に課税される所得金額に対する税額を表から計算、還付される税額が算出されます。

あとは還付口座を記載の上、令和3年3月15日までに特定寄附の領収書を忘れずに添付して申告します。住民税の申告は、確定申告に含まれますのでありません。

なお、熱田高校への「ふるさと納税」のチャンスは、2回あります。令和2年の年末までと令和3年の9月までです。

ぜひ、2度の機会を漏らさずにご活用ください。

ALL-ATUTAの寄附協力で実現させましょう。

(早川会計事務所所長) 参考、次のページを参照してください。



ハロウィンのころ / パステル

挿し絵 11 回生 田中和枝(竹内)

事務局たより

あとがき

「会報21号」は10月に全同窓生・関係者へ、コロナ禍の配布に、賛否は有りましたが配布。いかがだったでしょうか。

20年前までは5年に一度「会報」を作成し、全同窓生・関係者に配布しましたが、予算の関係上、現在「会報」は年2回発行し熱田高校同窓会ホームページに掲載しております。(11号から今回で22号になります) 予算が許せば以前のように5年に一度は全同窓生・関係者に配布したいものです。良い方法を役員や関係者で検討して欲しいと思っています。

「会報22号」は、コロナ禍真っ最中の学校生活を中心に投稿をいただきました

会報の中で「がんばれ熱高生」はOBに原稿を依頼しています。できれば同窓会事務局で人選するのでなく、自由に原稿を事務局に送って下さることを望みます。また原稿は男性が多いため、女性の大きいなる参加を求めます。

題字 初代書道教師 名郷紫山

令和2年度 役員一覧

Table with 4 columns: Position, Name, and Number. Includes roles like 顧問, 副会長, 事務局長, 書記, 会計, 監査, 学校幹事.

避けよう三密



確定申告書の記入例(A様式)

ふるさと 二郎さんのケース

所得：給与のみ(年末調整済)
 ふるさと納税(寄附)(※)の額：3万円
 (※) 特例控除対象の普通国県・市区町村に対する寄附金

家族構成：夫婦子1人
 (妻は控除対象配偶者、
 子供は一般の控除対象扶養親族に該当)

(注)ふるさと納税(寄附)の控除を受けるための申告書記入例です。
 他に医療費控除等の申告をする場合は他欄の記入も必要ですので、ご注意ください。

令和 元 年 分 給与所得の源泉徴収票

〇〇市△△町x-x-x

7,500,000 5,550,000 2,415,000 220,500

1,125,000 100,000 50,000

120,000 120,000

ふるさと 花子

ふるさと 花子

△△市〇〇 x-x-x XXXX-XXXX

〇〇 株式会社

「寄附金控除③」の計算

ふるさと納税の額	30,000円	A
第一表⑤欄	5,550,000円	B
B×0.4	2,220,000円	C
AとCのいずれか少ない方の金額	30,000円	D
寄付金控除額(D-2,000円)	28,000円	E

令和 〇1 年 分 の 確定申告書 A

FA0114

住所：〇〇市△△町x-x-x
 氏名：ふるさと 二郎
 生年月日：340 1 1

給与	7,500,000	3,107,000
公的年金等		213,200
その他の所得		
給与	5,550,000	2,132,000
給与	5,550,000	2,132,000
社会保険料控除	1,125,000	447,777
生命保険料控除	100,000	220,500
地震保険料控除	50,000	0
雑損・雑費控除	0	28,233
学費・雑費控除	0	
学費控除	38,000	
扶養控除	38,000	
その他控除	38,000	
合計	2,415,000	
医療費控除		
特別控除	28,000	
合計	244,300	

所得の合計 3,107,000円

課税される所得金額 213,200円

(※) 計算の指示があるものはそれに従って計算した結果を記入してください。
 (例) ⑤=①+②+③+④

「上の②に対する税額②」の計算

②の金額	課税される所得金額に対する金額
0円	0円
1,000円 ~ 1,949,000円	②×0.05
1,950,000円 ~ 3,299,000円	②×0.1-97,500円
3,300,000円 ~ 6,949,000円	②×0.2-427,500円
6,950,000円 ~ 8,999,000円	②×0.23-636,000円
9,000,000円 ~ 17,999,000円	②×0.33-1,536,000円
18,000,000円 ~ 39,999,000円	②×0.4-2,796,000円
40,000,000円 ~	②×0.45-4,796,000円

3,107,000円(円)×0.1-97,500=213,200(円)

令和 〇1 年 分 の 確定申告書 A

FA0068

住所：〇〇市△△町x-x-x
 氏名：ふるさと 二郎
 生年月日：340 1 1

〇〇株式会社

所得の内訳

給与 7,500,000円

所得から差し引かれる金額に関する事項

所得控除の合計 220,500

課税所得の合計 220,500

課税される所得金額 213,200

確定申告書の記入例(A様式)

寄付金額を記入する。
 寄付先の所在地「名古屋市熱田区千年一丁目17番71号
 名称「(愛知県)熱田高校70周年記念事業

国税庁HPの「確定申告書等作成コーナー」で作成する場合は、⑭や⑵は、自動で計算されます。